

子どもたちによる水辺の生き物観察会

対象：幼稚園から小学生（1年生から6年生）までの子どもと保護者

人数：20人から40人

教科/分野：理科/自然観察

授業時間数：1時間30分（観察・まとめ55分間）

場所：丸山川上流（千葉県酪農のさと付近）

ESD プログラムへの 想い	自然と触れ合う機会を失っている子ども達に参加してもらい、水生生物を見つけ、自然の豊かさや生物多様性を感じ取り、環境保護の必要性を感じてほしい。		
目標	<p>自然と触れ合い、川にはさまざまな生き物が生息していることを学び、それらの生き物の存在から水質調査ができることを学べる。 これらの生き物を存続されるには川の水質を保つことが大切であることを学び、自然の大切さを知ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川にはさまざまないきものが生息していることを実感する ・川の生き物を調べることで水質調査ができることを知る ・川の水質を保つことの重要性を理解する 		
特徴	自然の中に身を置き、そこに生息する生き物を発見することで、楽しみながら自然の大切さを学習できる。		
持続可能な社会づくりの構成概念	多様性・相互性・責任性：自然の豊かさ、生物多様性を保つことで、環境保全を図ることができる。		
重視する能力・態度	<p>⑤進んで参加する態度：自主的、積極的に行動できるか。 ⑥つながりを尊重する態度：生き物に対する観察力、優しさを身につけているか。 ②未来像を予測して計画を立てる力：安全について配慮できるか。</p>		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内 容
15 分間	使用する道具や 用紙を準備する	現 地	<p>事前準備</p> <p>①網（川虫ネット）・バケツ・バット・ルーペ ②温度計・巻き尺・流速測定器具・ストップウォッチ ③参加者記入用紙・記録用紙・集計用紙・筆記道具 ④水生生物図鑑</p>
15 分間	会場設営	現 地	<p>会場設営</p> <p>①テント ②受付台</p>

10 分間	当日の諸注意	現 地	スケジュール ①始めのあいさつ ②作業工程の説明 ③諸注意
35 分間	生き物観察	現 地	生き物観察 ①川の状況調査 ②水生生物の捕獲（発見） ③捕獲生物の分類 ④捕獲生物の同定 ⑤集計用紙への記入 ⑥捕獲生物の放流
10 分間	まとめ	現 地	まとめ ①水質特定
5 分間		現地	②記念撮影 ③終わりのあいさつ
SDGs との関連性			6 きれいな水と衛生 14 海の豊かさ 15 陸の豊かさ
学校・地域等との連携上の考慮			市内各小学校の協力を得て、全小学校に案内チラシを配り、参加を募る。 市内の地域センター、道の駅などにポスターの掲示と置きチラシをして市民への広報に努める。
対象を発展させる可能性			調査結果や写真を保存しておき、違う季節や場所の調査結果と比較する。同一地点の長期的な変化を調べても良い。 環境省の全国水生生物調査に参加し、全国の他の地域と比較する。
その他 補足事項			生物標本を活用して分かりやすく水質の同定をする。 （水のきれいな場所に住む生物から水質の変化によって清む生物に違いが出てくる） 捕獲した生物を元に帰す。 自分自身で安全確保ができるように注意を促す。

プログラム作成者名（団体名）：相川 寿夫（NPO 法人南房総エコネット）